

北海道国際理解教育研究協議会

会長 白石 邦彦

事務局長 中村 淳

会報 第75号

国際理解教育は、双方向に

北海道国際理解教育研究協議会

副会長 中村 一治

(江別市立上江別小学校 校長)

本協議会「会則」に、一番古い日付を探してみました。「付則」に、昭和52年1月18日と記されています。このことから、本協議会は、実に、33年間の積み重ねがあることがわかります。

創立された当時は、「在外教育施設派遣制度」が整備され、本道からも派遣が可能になり、帰国した先生方の海外での貴重な体験を何とか教育現場に生かしたい。「国際理解教育」とは何かを学びたい。そんな思いで集まり結成されたのが、この協議会でした。

設立から三十数年を経過した本年1月、理事総会で、一つの重要な決議がなされました。それは、道協議会と地区協議会の役割を明確にし、財政面で地区協議会が道協議会を支えていく体制を確立していきましようというものでした。これは、次の世代にこれまでの研究成果を繋げていける確かな道筋ができるということで、私としては大変喜ばしいことだと考えています。今後とも本協議会が、「北海道における国際理解教育のオピニオンリーダー」として、本道教育に大きく貢献していくことを強く期待するところです。

さて、「国際理解教育」と言えば、こちら(日本)から向こう(世界)を学ぶというイメージが強くありますが、その反対に、向こうがこちらを学ぶということもあります。その一つに、石狩地区の協議会の取り組みを紹介させていただきます。それは、モンゴルからの教育視察団を3年前から受け入れているということです。

モンゴルからの視察は、「NPO法人日本モンゴル教育交流協会」を主宰する小出達夫(北大名誉教授)先生のご尽力で実施されているものです。毎年、4名ほど来道し、札幌や石狩管内の学校を訪問視察しています。来られる方は、モンゴルの首都ウランバートルや周辺の都市の教育長、公立学校の校長、教頭で、「日本の学校について」学校経営から校務組織、学校設備まで、ありとあらゆることに興味を示し、熱心にメモをしていきます。通訳のモンゴル人の日本語の流暢さにも驚かされますが、視察する先生方の意欲の高さには、本当に感心させられます。

何故、こんなに熱心にモンゴルから視察に来るのかと言えば、モンゴルは、今日、教育刷新の渦中にあり、その目指すモデルとして日本の教育制度を考えているというのです。

モンゴルは、1990年にソ連の崩壊と共に、社会主義から市場経済へ移ったのですが、経済情勢の好転は見られず、学校教育も厳しい条件下にあると言われています。ようやく8歳児入学から6歳児入学になり、「5・4・3制の12年制普通教育体系」になったそうですが、新教育課程の編成、教員養成・再教育、教科書の編集、学校管理組織の改編など、様々な課題に直面しているのが現実だそうです。

近年、レアメタルの存在がわかり、その利権をめぐり先進国の注目を集めているモンゴルですが、遠い昔は「チンギスハーン」、現在は「朝青龍に白鵬」等と、日本となじみの深い国です。

そのモンゴルの学校現場に日本の教育が貢献できることは、大変素晴らしいことだと思いますが、モンゴルの将来にも大きな影響を与えるものだと考えると、視察を受ける側の責任の重大さを強く感じているところです。

理事会総会・研修会

新しい年が始まった1月6日(木)、平成21年度(冬季)の理事会ならびに研修会が、JICA札幌にて行われました。説明報告事項に続いて、北海道国際理解教育研究協議会規約改正にむけての審議、新役員を選出が行われました。

【会次第】

1. 開会の言葉 網走地区会長 高柳 修
2. 会長挨拶 白石 邦彦会長
3. 自己紹介(理事・事務局員)
4. 説明報告事項
 - (1) 帰国教員報告会・派遣教員研修会・激励会について 森担当事務局長
 - (2) 平成21年度事業報告
研究・事務局・庶務・広報・会計・組織
*研究部は、研究の説明・報告の後、別室で研究協議を行う。
 - (3) 平成21年度会計監査報告
 - (4) 第30回北海道国際理解研究大会札幌大会を終えて 林英雄札幌地区副会長
 - (5) 今後の大会開催予定地

1 十勝	2 檜山	3 札幌	4 後志	5 札幌	6 胆振	7 札幌
8 上川	9 渡島	10 札幌	11 網走	12 十勝	13 檜山	
14 釧路	15 石狩	16 旭川	17 札幌	18 釧路	19 後志	
20 北見	21 胆振・室蘭	22 札幌	23 十勝	24 上川・旭川		
25 釧路	26 石狩	27 胆振	28 網走	29 空知	30 札幌	
31 函館	32 上川・旭川	33 十勝	34 釧路			

- ・平成23年度 32回大会 上川地区 開催決定(第10次研究 初年度)
- ・平成24年度 33回大会 十勝地区 開催決定(第10次研究 2年度)
- ・平成25年度 34回大会 釧路地区 開催決定(第10次研究 3年度)

5. 審議事項
 - (1) 規約改正にむけて 中村事務局長
 - (2) 平成22年度事業計画 各部担当者
事務局、庶務、広報、会計、組織
 - (3) 役員選出
役員選考委員会(司会 古里事務局次長)
6. 新旧役員紹介・挨拶
7. 次期大会開催地会長挨拶 副会長 函館地区会長 藤井壽夫
8. 連絡・その他
 - ・全海研会費及び道会員会費納入のお願い 中村事務局長
 - ・補助校プロジェクトについて
9. 閉会の言葉 十勝地区会長 舟越 洋二

【審議された内容】

本会の組織の活性化のため、規約改正案が提案され承認されました。尚、細則については、会員数が確定する中で提案していくことになりました。

1. 規約改正について

①承認された内容

第4章 会員及び組織

第5条 本会は、本会の目的に賛同し、各地区及び全道の国際理解教育の発展のために活動する会員で組織する。

2、各地区の会員は、道会員として活動に参加する。

第7章 会計

第16条 本会の運営は、各地区からの事務局運営金・寄付金・その他の収入をもってあてる。事務教区運営金の額は、役員会で検討し、総会の決議を経て細則で定める。

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

細則 1 事務局運営金は、各地区の会員の数によって決める。

②再提案するもの

細則 1 事務局運営金は、各地区の会員の数によって決める。

③確認されたこと

- ・ 1年度の会計規模については、60万円を考える。
- ・ 事務局運営金については、各地区会員数の実態をふまえて決定していく。
- ・ この規約改正については、平成23年度から実施する。

2. 22年度の会計について

①各地区が道会員を集金し、事務局会計へまとめて入金する。

②全海研会費については、各地区会長・事務局長が会員となり、会費を納入する。

※道事務局については、会長、事務局長とする。

③広報誌については、各地区事務局に送付し、印刷をお願いする。

【役員選出について】

会長は、昨年度から引き続いて白石 邦彦先生（札幌市立清田小学校長）に決定しました。続いて次期大会開催地・函館地区の会長藤井 壽夫先生（函館市的場中学校長）から挨拶がありました。

派遣教員及び帰国教員研修会

昼食をはさんで、午後からは平成22年度に在外教育施設に派遣になる教員と平成20年度に帰国した教員の研修会が行われました。

はじめに全体研修会で、国際協力機構札幌国際センター（JICA札幌）所長の外川 徹氏から海外勤務の心得について講話をいただきました。

ご自身のアフリカでの貴重な体験を交えて、以下のような丁寧なアドバイスを頂きました。（その中の一部を紹介します）

- ・日本大使館の提供する情報がとても大切である。（ネットワークを大切に）
- ・車での事故や狂犬病、食の衛生面等への注意。
- ・現地で信頼できるホームドクターを推薦してもらうこと。
- ・ストレスをためないように運動を心がける。（健康面）

【帰国報告会および派遣地域別研修会】

《アジアⅠ部会》《アジアⅡ部会》《アフリカ・南米部会》《ヨーロッパ・北米部会》と4つの部会に分かれ、平成20年度に帰国した教員より在外教育施設における教育の実情および現地での教育実践等について報告がありました。



《アジアⅠ部会》

- 発表者 嶋田 肇（札幌市立中の島小学校校長・バハレーン日本人学校）
- 松本 太志（登別市鷺別中学校教諭・バンドン日本人学校）
- 井上 智雄（札幌市立西岡北中学校教諭・クアラルンプール日本人学校）

《アジアⅡ部会》

- 発表者 富田 律子（室蘭市立本輪西小学校教頭・香港日本人学校大埔校）
- 斉藤 悦代（上川町立上川中学校教諭・上海日本人学校）

《アフリカ・南米部会》

- 発表者 長谷川 順子（釧路市立愛国小学校教諭・カイロ日本人学校）
- 永洞 純一（石狩市立花川小学校教諭・アスンシオン日本人学校）

《ヨーロッパ・北米部会》

- 発表者 吉川 千穂（鶴居村立下幌呂小学校・教諭・ルーマニア日本人学校）
- 後藤 陽一（苫小牧市立緑陵中学校・教諭・デュッセルドルフ日本人学校）
- 岡崎 正典（沼田町立沼田小学校・教諭・ニューヨーク日本人学校）

※報告会后、部会ごとに派遣地域別の研修会がおこなわれました。

この日の最後に、平成22年度在外教育施設派遣者の激励会が行われました。健康には十分留意され、北海道の代表としてのご活躍を願っております。

【平成22年度 在外教育施設派遣者】

管内	所属名	職名	氏名	派遣先	国名
上川	中川町立中川中学校	校長	山本 昇一	ヨハネスブルグ日本人学校	南アフリカ
釧路	釧路町立知方学小学校	校長	高尾 稔	香港日本人学校大埔校	中国
空知	滝川市立滝川第三小学校	教頭	織田 靖雄	ボゴタ日本人学校	コロンビア
石狩	石狩市立紅南小学校	教諭	長根 幸子	ペナン日本人学校	マレーシア
渡島	函館市立桐花中学校	教諭	池田 忠寛	上海日本人学校浦東校	中国
後志	蘭越町立蘭越中学校	教諭	小林 正枝	バンコク日本人学校	タイ
上川	当麻町立当麻小学校	教諭	山口 貴大	台中日本人学校	中国
網走	西興部村立西興部中学校	教諭	倉田 忠彦	アスンシオン日本人学校	パラグアイ
胆振	白老町立竹浦中学校	教諭	吉井 真裕	アグアスカリエンテス 日本人学校	メキシコ
日高	浦河町立堺町小学校	教諭	櫻井 亮	バハレーン日本人学校	バハレーン
十勝	帯広市立南町中学校	教諭	古村 俊大	ジャカルタ日本人学校	インドネシア
十勝	鹿追町立笹川小学校	教諭	須田 慎二	ジョホール日本人学校	マレーシア
十勝	帯広市立帯広第一中学校	教諭	新井 英樹	リオ・デ・ジャネイロ日本人学校	ブラジル
釧路	厚岸町立真龍中学校	教諭	村田 高勇	シンガポール日本人学校中学部	シンガポール
札幌市	札幌市立厚別通小学校	教諭	関本 勝幸	クアラルンプール日本人学校	マレーシア
石狩	江別市立江別第一中学校	教諭	遠藤 光郎	コタキナバル日本人学校	マレーシア
空知	美唄市立南美唄中学校	教諭	悪七 広仁	シラチャ日本人学校	タイ
上川	旭川市立東町小学校	教諭	木村 伸一	日本メキシコ学院日本コース	メキシコ
日高	平取町立貫気別中学校	教諭	藤田 佳嗣	シンガポール日本人学校中学部	シンガポール
根室	別海町立中西別中学校	教諭	山本 桃子	バンコク日本人学校	タイ

「小学校外国語活動」ばかりに目が行って・・・

北海道国際理解教育研究協議会

副会長 林 英雄

(札幌市立真栄中学校 校長)

「国際理解教育」はどこに行こうとしているのだろう、なんて過激なことを考えてしまいます。

平成23年度からすべての小学校に外国語活動が入ることになり、国際理解教育への追い風になるかと思いきや、外国語活動を盛り込んだ研究会や学習会にばかり注目が集まり、「母屋をとられた」感があります。いやいや、小学校の外国語活動は国際理解教育の一環なのだからと思いつつながら、ゲームやダンスをしたり、歌ったりしている子供たちの姿を見ていると、どうも腑に落ちない気分になってしまいます。いつの間にか、国際理解教育が外国語活動の中に埋没してしまう、そんなことはあり得ないでしょうが、一抹の不安があります。

外国語活動は、「活動」という言葉があるように「手段」です。「目的」ではないのです。目的は、様々な学習活動などを通して、健やかな、そして意欲的に学ぶ、豊かな心をもった子供たちをはぐくむことです。しかし、外国語活動を参観していると、先生の指示にすばやく応じることのできる子供、外国語（英語）がすぐに口をついて発音できる子供、自分のことについて先を争って話す子供の姿を求めているようで、技術的な部分が前面に出ているように感じます。ゲームや歌うこと自体が活動の目的になり、それで「楽しい」と感じるのではなく、コミュニケーションをすることで楽しくなる、つまり自分のことを伝え、相手のことを知って「楽しさを感じる」、そんな方向を目指したいのです。

今年度の北海道国際理解教育研究大会札幌大会の研究主題は、「自分と地球をつなぎ、未来を切り拓く児童生徒の育成」でした。その中で、「札幌と世界がつながっていることを実感しながら、問題解決学習を進めていくことができる子供」「仲間と共に問題解決に向かって行動することができる子供」を目指す子供像としました。「つながり」そして「行動」がテーマです。国際理解教育においては、「知る」「感じる・考える」「行動する」という3つの視点を大事にし、複数の視点からの多様性に気づき、比較を通して違いを理解しながら共感を高め、そして自ら学んでいくという展開が必要です。

国際理解教育の視点から外国語活動を進めたいというのが、私の考えです。一つは、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深めることです。また、コミュニケーションの大切さを実感しながら、相手を理解する方法を工夫することです。できれば、英語ばかりではなく、様々な民族の会話や発声の違いなどへの興味も高め、違うことへの寛容の意識を高めることです。

「そんなこと、もうやっているよ」とお叱りの言葉が聞こえてきそうですが...

「空知国際理解教育協議会」活動の紹介

北海道国際理解教育研究協議会

副会長 石塚 信彦

(美唄市立南美唄中学校 校長)

空知国際理解教育研究協議会は会員が20数名と小さな組織ですが、平成7年からは研修会と研究大会を主な取り組みとして毎年実施するなど細々ながらも継続して「子どもの確かな変容」をめざす研究に取り組んできました。

さて、平成21年度の空知国際理解教育研究協議会の活動を紹介します。

まず5月には「空知国際理解教育研修会」として岩見沢の教育研究所を会場にニューヨーク日本人学校から帰国された岡崎正典先生の帰国報告会及び滝川国際交流協会事務局長山内康裕氏によるワークショップが行われました。空知教育局からは同じニューヨーク日本人学校に勤めていた佐藤指導主事にも助言者として来ていただき、大変有意義な研修となりました。



次に7月の「夏の学習会」では緑中学校を会場に空知の研究大会で行われる公開授業の指導案検討を行うとともに、新しい試みとして桐渕先生によるロシア料理教室を開催しました。指導案検討での活発な

ロシア料理の試食会より

意見交流はもちろんですが、本格的なボルシチとマッシュルームを使ったグリブイシャンプニオンという料理を調理し、みんなで楽しく、おいしく試食をすることができました。

11月には「第15回空知国際理解教育研究大会」として岩見沢小学校を会場に平山麻美先生が4年生の総合的な学習の時間「英語活動」を公開しました。授業では空知の研究の視点である「身近な素材から世界へ視野を広げる教材の工夫」を踏まえ、ALTの出身地であるニュージーランドを題材として、日本の文化との比較をカルタづくりをとおして行い、自国の文化の良さや違いに気付かせるという取り組みがなされました。今後、国際理解教育としての英語活動がどうあるべきかについて、1つの示唆となるのではないかと考えております。

今年度は料理教室という新たな取り組みを試みましたが、今後も基本は大切にしながら、会員にとってより魅力のある研究団体を目指していきたいと考えております。

教育ベクトルは国際化に！

釧路地方国際理解教育研究会 会長 戸 松 栄
(釧路市立山花小中学校 校長)

◎ 道内の各地区で研究推進しておられる先生方とは、道の研究大会や会報で交流できますことに心強く思います。始めに釧路地区の活動内容を簡単に紹介します。

【メッセージ to くしろ】

JICA 帯広の協力を得て、帯広畜産大学に留学している研修生を招き、管内の青少年と交流するものです。今年は12月12日(土)、ブルキナファソ、モンゴルなど7カ国から11名参加していただきました。この意義は、子どもが自らの力で英語を使ってコミュニケーションするチャレンジの場だということです。

【授 業】

今年は11月から12月にかけて小・中・高で英語の授業研を開催しました。武修館高等学校2年生ではAETが英国の生活について説明し、生徒は他言語を学ぶ必要性について班討議し、意見を英語で述べ担任の浅川貴廣教諭がまとめる授業を公開しました。青葉小学校では、佐藤真弓教諭が5年生でパフェを作る材料を集める場を設定し、子ども達が互いに英会話する授業を公開。幣舞中学校では、恐神教諭が1年生でハンバーガーの店を設定し、売る人・買う人の立場で会話を学習しました。

【その他】夏季・冬季研修会、市民講座、フォスタープランへの参加を行っています。

◎ 関連する動向として、『ユネスコスクールフォーラム in 釧路』が11月21日に開催されたことです。これは、平成20年度北海道教育大学釧路校に設置されたESD推進センターが主催し釧路管内にユネスコスクール参加へのアピールがありました。講演には豊島美穂子氏(文部科学省国際統括官付ユネスコ係長)が持続発展教育(ESD)とユネスコスクールの活用について詳しく説明がありました。また、本会は活動内容を紹介し、先進校の気仙沼市から2校、東京都・富山市から実践発表がありました。参加者にとっては、ESDの教育活動についてイメージされたように思います。

ESDの理念は持続可能な社会を担う人材育成をめざす他、環境教育、国際理解教育、エネルギー教育、世界遺産にまたがり、総合的な見地から情報や人材を集め解決の道筋をつける能力を育てることを求められています。

教育振興計画に基づいた施策でもあるESD推進センターが機能することにより、釧路教育界のベクトルが国際化に傾いて行くことと思います。本会の使命として、今後教師や各学校からの要請に応えられ活動の充実に努めていく所存です。

海港151年を迎えた、国際都市「函館」

～11月4日(木)～5日(金) 函館大会を控えて～

北海道国際理解教育研究協議会

副会長 藤井 壽夫

(函館市立的場中学校長)

「幕末の江戸神田の書店街の一角で洋書を立ち読みする多少むさ苦しい若者がいました。ちょうど函館きっての読書家の商人、渋田利右衛門(1818年～1858年)が来店しているときでした。利右衛門は、若者の真剣さに何かを感じ、店主の話も聞いた後、その若者に200両という大金を勉学代として与えました。その後、若者はそれを資金に長崎への留学を果たします。利右衛門はその後も、若者のパトロンとして、資金的援助を続け、深い友情で結ばれていました。その若者こそ、後の勝海舟こと勝隣太郎でした。」

これは、幕末に函館に生きた商人渋田利右衛門と勝海舟との出会いとその後の話で、勝海舟の伝記等にも出てきます。横浜とともに幕末から世界に開かれた港町として栄え、アメリカ、イギリス、フランス、ロシアをはじめとして多くの外国人が訪れ、居住した国際都市「函館」は、これまでに世界に誇れる多くの人物を輩出してきました。その一人、函館の商人で読書家であった渋田利右衛門は、勝海舟の資金援助者であったことは有名ですが、函館においても渋田文庫(図書館)の創設等、庶民の教育に終生貢献した人でした。

平成21年7月1日、函館市民会館大ホールにて、函館開港150年記念式典が挙行されました。式典は開港記念演劇「リ・スタート」で始まりしました。函館に魅力を感じない若者とその家族。そこから浮かび上がってくる函館の決して明るくない現状と課題。しかし、函館の歴史を紐解くとそこには開港以来脈々とバトンを継いできた、函館の人と人の努力の営みが見えてきます。そして、函館のバトンを今持っている私たちの努力こそ明日の函館を拓く力であり、決してバトンを途絶えさせてはいけないとの決意で演劇は閉じました。

今、国際都市函館は重要な転機にさしかかっています。開港150年を期に、函館学を学校教育に取り入れる動きが拡がりを見せ、改めて函館に生きた人のすばらしさを確認したところです。函館の町は当時の異国文化を至る所に残しエキゾチックな観光の町として、全国一の人気を誇っていますが、この函館の町を創り、支え、育んできた多くの先達の存在を学ぶことこそ、今は最も重要だと感じています。函館学を学ぶことは「国際理解教育」に直接結びつきます。その意味で、開港151年目となる、リ・スタート初年に北海道国際理解教育研究大会を開催することは、私たちにとって大きな意味をもちます。

現在、私たちはペリーの来港当時を学び直し、そこから見える函館の文化を研究授業に生かせないか授業研究を通して実践的に検討しています。函館大会では、函館らしい研究大会を目指し、函館ならではの提案をできればと思っています。

11月4日(木)、全道各地からの国際理解教育発展に対して志を一にする多くの方々のお出でを開港151年目を迎えたここ「函館」でお待ちいたしております。

編集後記 釧路より派遣されています川口主紀校長先生から活動報告が送られてきましたので、巻末にご紹介させていただきます。各地区の情報をお待ちしております。

ボゴタ日本人学校活動報告

2009 11. 17日 現在

ブログ・HP <http://blogs.yahoo.co.jp/bogotaacj2007>

和文化ワークショップに感激！



江戸三味線で「春夏秋冬」を演奏して下さいました。春は桜、夏は隅田川のせせらぎ、秋は虫の声、冬は雪の降る様子が、師匠、お弟子さんの三味線から見事に表現されていました。次に、江戸中期「斬新」と評価されたというスライド奏法、ハンマリング・オン、オフ奏法を駆使した演奏。おまけに、子どもたちのリクエストでロックまで。目の前、生で聴く妙技に一同興奮！

「チロリン村とクルミの木」、先月よりNHKで始まった「三銃士」等を手がける人形劇団の名門です。「獅子舞」と「かっぱれ」のあと、子どもたちにも獅子舞、人形操作の基本を手ほどきしていただきました。八王子車にしても、一人操りの人形にしても、それぞれ日本の昔からの工夫が活かされていることに、伝統文化の深みを感じたワークショップでした。



最後は鬼太鼓座のワークショップです。「鬼太鼓体験」ということで、迫力ある演奏のあと、子どもたちと準備運動、基本ビート打ち、そして即興の演奏へと入っていきます。普段の練習の成果が出て、子どもたちは20分連続でたたき続けることができました。本校の新曲作曲へのヒントもいただき、大満足でした。「静」と「動」を織り交ぜての演奏は、まさに日本文化の基底を見せてくれました。(布団たたきが、あれほどの迫力を出すとは！)



10日のボゴタ公演では、さらに迫力ある演奏、演技を見ることができました。今回のワークショップ、また招待券などお手配いただきました大使館に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

1 在籍数・家庭数報告（11月17日現在）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男子	1	2	3	1	3	1	1	1	0	13
女子	1	1	1	1	1	0	1	1	0	7
合計	2	3	4	2	4	1	2	2	0	20
家庭数	1	0	2	2	3	1	2	2	0	13

2 当月、翌月の主な教育活動等

11 月			12 月		
5	木	バス指導（～6日 下校バス）	1	火	中学部期末試験
7	土	カリ移住80周年記念事業	2	水	中学部期末試験
9	月	鬼太鼓座等和文化ワークショップ	4	金	校外学習（大使館警備班訪問）
10	火	鬼太鼓座等ボゴタ公演	19	土	授業参観日・懇談会・駅伝大会
24	火	中学部期末試験範囲発表	23	水	終業式
26	木	児童生徒健康診断	24	木	冬季休業（～1月6日）
30	月	校外学習（JICA・JETRO訪問）			

3 教育活動予定特記

● 11月26日（木） 児童生徒健康診断

巡回医療相談が廃止となったため、大使館医務官にお願いし、児童生徒のみ特別に実施していただけることになりました。

● 11月30日、12月4日 校外学習でJICA、JETRO、大使館に伺いする予定です。 お忙しい中、子どもたちの質問でお手を煩わせますが、よろしく お願い申し上げます。

● 12月19日（土） 駅伝大会（授業参観日）

4つの縦割り班に分かれて競います。安全確保の面からグラウンド周回となるのがちょっと残念ですが、子どもたちはチームごとに練習を開始し、それぞれ必勝を期している処です

4 文科省初等中等教育マガジン等に見る国内の教育の流れ・情報

● 文化庁「国語に対する世論調査」

② 「毎日使っている日本語を大切にしているか」 76.7% 16～19歳 28pアップ

② 「美しい日本語というものはあるか」 97.7%

※ 「では、美しい日本語とは？」

1位 思いやりのある言葉 2位 あいさつの言葉

3位 控えめで謙虚な言葉 4位 素朴ながら話し手の人柄がにじみ出た言葉

● 文科省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」（教員への調査）

・「教材研究・準備などに活用できる」72.6%、「授業で活用できる」56.4%

「児童生徒にパソコンの指導ができる」58.5%